

第3回安曇野市地域福祉計画推進・策定委員会 会議概要

1	審議会名	第3回安曇野市地域福祉計画推進・策定委員会
2	日 時	令和5年5月23日 午後1時30分から午後3時10分まで
3	会 場	安曇野市役所 3階 共用会議室 306
4	出席者	尻無浜会長、山崎(徳)副会長、山崎(博)委員、草間委員、竹澤委員、八田委員、小澤委員、酒井委員、依田委員、西澤委員、青柳委員、小木曾委員、藤松委員
	<事務局>	安曇野市社会福祉協議会 地域福祉課 大澤課長、宮澤主幹係長、稲越まちづくり担当係長
5	市側出席者	甕部長、上條課長、丸田係長、水野主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人 0 人	記者 0 人
8	会議概要作成年月日	令和5年5月24日

協 議 事 項 等

1 開 会 (進行：上條課長)

2 会長あいさつ (尻無浜会長)

8回会議をして第4期計画を作ろうという計画で、今日は第3回目となりますが、今年度最初の会議になります。第3期計画の実績を持って新しい第4期計画を作っていきますが、地域の福祉計画として高齢者・子供・障がい者という対象別というよりは、地域を網羅する形でプランを立てていくもので、福祉の専門職や区などの関係する人の叡智を集めて、計画を作らなければならない。簡単なフレームですが、結構難しい中身を構築しなければいけないということが、この福祉計画の中には含まれている。ゆえに各委員さん方お一人一人の、いろんな見解やジャッジを結集して、何とか作成していきたいと思っています。

3 福祉部長あいさつ (甕部長)

前任の鳥羽に代わりまして、4月から福祉部長ということでお世話になります。

さて、市は地域福祉推進のために平成20年に初めてとなる第1期地域福祉計画を策定しました。それを更新してきて、現行は第3期計画を運用していますが、令和6年度を初年度とする第4期計画をこれから作っていくので、委員の皆様には大変お世話になりますがよろしくお願いします。

本日の会議ですが、現行の第3期計画の検証、2000人の市民を対象としたアンケート結果がまとまりましたので、第4期計画の構想作りに向けた意見交換をお願いします。

計画策定に当たりましては、委員の皆様の活発なご議論をいただき、安曇野市らしい計画となるようお力添えを賜りますようお願いいたします。

4 協議事項

(1) 第3期計画の検証について

①総括評価シートの確認（市、区、社協）（資料1）

(丸田係長) 資料に基づき（市、区）部分を説明。

(宮澤主幹係長) 資料に基づき（社協）部分を説明。

(委員からの質問、意見)

(西澤委員)

努力しているが実際に進んでいるのか。時代やコロナの関係で進まないという面もあるが、担い手不足は人材がないというわけではない。私もいろいろな講座をやってもらい、時間をかけて育ててもらってから公募で参画しているが、講座に参加した人がいなくなっている。参画して出てくれば育てられるが、集まりもなくどこに行ったか分からなくなっている。

安曇野市全体を何十年も見てきたが、努力している割に人材がない。しっかり勉強して1年近く講座を受けて色々なことをやってきたが、そういう人達が育たなくてどっか行って消えている。そのことで安曇野市は育てるということが欠けている地区だと痛感している。安曇野市は育てることが下手で大丈夫なのか。

私は、大町市、松本市最後に安曇野市に移り住んだが、安曇野市大丈夫かということが感覚的にある。いろいろやって住みよい市にしたいので、うんと努力して前に進めていただければよろしくをお願いします。

(回答)

(尻無浜会長)

本日の検証でお気づきになられたご意見をいただきましたので、それをどう次のところで活かしていくか、是非ご意見を聞かせていただければと思います。ありがとうございます。

(委員からの質問、意見)

(山崎（徳）副会長)

人材のお話をしたいと思いますが、2年くらい前に88歳の横浜の老人福祉施設の医師をしていた人が移住されてきて、非常に話も上手くパソコンも使える人です。コロナでなかなかできなかったが、いきいきサロンで年3回お話を聞き、非常にためになりました。

探せば人材はいるという話になりますが、こういう人が来てくれればありがたい。探せば積極的にやっていただける人もいると思うので、これから頑張って探し、教育していただければと思います。

(回答)

(尻無浜会長)

人材の活かし方、発掘のし方、福祉教育などの指摘は、従来の計画の中でされているが、その中身が不十分との指摘もあるわけで、今後の計画の考え方になるかと思います。

評価といっても、評価の設定等がそれぞれにあり個人差の受け止めもあるので、それらを踏まえてどう計画に反映できるかが、重要になってくると思います。

第3期計画は、実は1年1年進捗を管理していくこととしたが、新型コロナもあり結局1回も

できなかつた。ゆえに、今回5年分をまとめて共有した経緯があり、計画を作った後も引き続き1年1年進捗を検証していくあり方を、第3期でできなかつたものをその中身だけではなく、この検証していくあり方を考えていった方がよいと思っています。

あと一つ、行政と社協から評価説明を行いました。行政計画ですので、計画に関係する行政の部署が評価することは、色々な市町村が行っている評価と同様になります。ですが、安曇野市は社協と一緒に計画を策定しており、社協での事業計画、地域福祉事業計画というものが含まれています。社協の事業は、この計画に沿った形で展開している経緯もあるかと思っておりますので、できたかできなかったのか等々がはっきり見えて共有できたかと思っています。これは、第2期の計画が終わったところで、行政計画と社協の事業計画を合わせた計画にしましょうという取り組みを第3期目に行ったため、同じ項目に関して行政の評価、社協の評価、市民の評価や関わっている人が評価している。第3期計画を作るプロセスを、よく踏まえた検証のあり方であると理解いただければと思います。

②各主体別の検証について

ア 市民アンケート調査報告 (資料2)

(水野主査) 資料に基づき説明。

(尻無浜会長)

説明の通り、約4割の回収があるピカピカの市民アンケートで、2,000人に年代別で配布をしているが、回収からも年代別に差があることが伺えます。その結果の中身が、先ほど説明があった内容になります。

アンケートの中身に関して、確認事項等があれば質問、意見ををお願いします。

(委員からの質問、意見)

(依田委員)

このアンケートは同様なものが過去にもあるのでしょうか。もし行われていれば、前回と今回との比較をすれば、解決されていない課題や、今後、重要になっていく課題が見えてくると思う。今年だけでは、どう変わっているかわからないので質問させていただきました。

(回答)

(水野主査)

今回のアンケートを初めて実施しています。これからは、同様のアンケートを継続して行い、前回からどのように意見が変わったかなど比較検討していければと考えています。

(委員からの質問、意見)

(竹澤委員)

このアンケートは、次の第4回会議と計画の策定に対し、どのように関係するのか話を頂戴できればと思います。

(回答)

(丸田係長)

先ほど、ポイント毎にご説明しましたが、これらから見えてくる課題があると思います。

例えば情報を得るために、相談する先があまり周知されていないこと、事業そのものが知られていないことなどの課題が、いくつかアンケート結果から見えてくる部分もあると思います。このようなところを第4期計画で充実させたいと考えています。

後は、アンケートそのものが今後の指標になっていくと考えています。第3期計画では、我々も苦しみながら評価というか、振り返りをしてきた部分があります。このようなアンケート指標があれば、今後の振り返りがよりし易くなる部分がありますので、長い目を見た中でこのような部分も活かしていければと考えています。

(委員からの質問、意見)

(竹澤委員)

貴重なアンケートだと思っています。活用するベースとして働くとお聞きしましたが、このアンケートは、第3期計画の目標に対しバラバラに構成されているが、この間は計画のこの目標と繋がっているという振り分けが判るものはあるか。

(回答)

(丸田係長)

今回の資料では示しておりませんが、計画の施策に対しどのような設問を作れば検証できるかという観点で、それぞれの施策に当てはめる形で作っています。なお、設問の順番は、施策の順番とは関係がなく、バラバラになっています。

次回会議では設問と施策の関連を資料で示させていただけたらと思います。

(委員からの質問、意見)

(西澤委員)

多いのか少ないのか、関心があるのかないのか、これらが私達には見てこないもので、このようなアンケート結果を近隣の市町村と比べるのも大事だと思います。調べれば何か参考になることがあるかもしれないので、できれば調べていただければと思います。

(山崎(博)委員)

関連しまして、県民の福祉の意識調査を5年定点で行っています。ちょうど今年が実施年度となっていますので、まさにこのような内容の部分が出てきて、長野県全体としてパーセンテージを見えています。

このアンケートでは、2週間という調査期間ではありますが、回答4割弱ということは、残りの6割はより無関心である層と推測される中で、衝撃的な部分があります。例えばどこに困った時に相談するのかわでは、800人近くいる中で社協に2人や包括の4人というのは、これはもう凄まじい数字ですし、地域福祉計画推進の一番肝になる支え合い活動の実践というところで、1桁パーセントがありますので、県民意識調査ではもう少し上がるので、ちょっと衝撃的な数字が出ていると感じたことが感想になります。

(回答)

(尻無浜会長)

要望として出されたのは、この結果の客観性を保つために類似のアンケート、他の市町村との比較を試みることで、信憑性の精度が上がるというご意見かと思えます。

また、次の展開等々の視点は確認しておきたいので、そういった意味でもアンケートの活用は非常に重要だと思います。

イ 団体・事業者アンケート（案） （資料3）

(丸田係長) 資料に基づき説明。

(尻無浜会長)

団体・事業者アンケートを実施して、次回会議までに協議できるようにするとのこと。これも定点調査ではないので、第4期用の設定だと聞いています。

特にここで共有する質問がなければ、設問の構文等々に関しては、各自で事務局とのやり取りを行い意見の反映をさせていただけたらと思います。

(委員からの質問、意見)

(山崎(博)委員)

民生児童委員が100名以上いると思いますが、どの様な形で実施されるのでしょうか。事務局に出すということでしょうか。

(回答)

(丸田係長)

今考えているのは事務局で回答することを考えています。

また、市の役員にも相談し、実施方法を相談していきたいと思えます。

6 その他

(1) 令和5年度の会議日程について （資料4）

(水野主査) 資料に基づき説明。

(委員からの質問、意見)

(藤松委員)

アンケート調査報告のこの資料の取り扱いについて質問します。公民館長ですが、講座等の基礎資料となる詳しい資料になるので、公民館職員と共有したいと思っているが問題ないでしょうか。

(丸田係長)

公開できる資料なので、共有していただいて問題ありません。もし必要であればデータをお送りしますので連絡をお願いします。

7 閉会